

久喜市立郷土資料館だより

# ふ え ね 笛の音 第9号



形代流しの様子（令和元年 7月 31日撮影）

令和元年 7月 31日に、<sup>わしのみやじんじや</sup>鷺宮神社で<sup>なごしさい</sup>夏越祭が行われました。参拝に見えた人たちが<sup>むびようそくさい</sup>無病息災を願って<sup>まじ</sup>拝殿前で茅の輪くぐりをする中、午前 11 時頃から<sup>わしのみやさいばら</sup>神楽殿で<sup>むびようそくさい</sup>鷺宮催馬楽神楽が奉納されました。午後 4 時から神社の神職のほか関係者が<sup>なごしさい</sup>鷺宮神社を出発し、加須市洗磯神社付近の中川で<sup>かたしろ</sup>「形代流し」が行われました。これは名前や生年月日を記した<sup>ひとがた</sup>「形代」と呼ばれる人形の紙片に、体の悪い部分などの穢れを託し、川に流す行事です。舟に乗った神職たちが<sup>のりよ</sup>祝詞をあげる中、形代が勢い良く川に放たれる様子は壮観です。

（郷土資料館学芸員 星野 諒）

## 目

## 次

- 神楽の世界⑧ 昭和の神楽復興（前編）・・・ 2
- 収蔵資料紹介⑨ 木造釈迦如来坐像の複製・・・ 2
- 文化財調査の窓（百人一首絵馬）・・・・・・・ 3
- お知らせ情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

## 神楽の世界 ⑧ 昭和の神楽復興（前編）



笛を吹く白石國蔵氏

鷲宮催馬楽神楽は昭和20年頃には後継者が減少し、衰退の危機に瀕していました。伝承者の中でも笛や舞を完全に演じることができたのは、鷲宮神社の神楽役を代々務めていた白石家の白石國蔵氏（1891～1966）を残すのみとなりました。

神楽のおかれた状況を憂いた國蔵氏は、同じく江戸時代から神社に仕えていた針谷家の健次氏のもとを訪ね、神楽復興の話を持ちかけます。健次氏は戦地で生死の境をさ迷い、夢枕で神楽の笛の音を聞いて九死に一生を得た経験もあり、協力を快諾します。その後、神社の宮司相沢正直氏や氏子総代鈴木福太郎氏の協力も得ながら、神楽の復興運動が始まりました。

しかし、戦後の貧しい時代にあって、神楽を習おうとする者は少なく、復興は困難を極めました。そうした中で、健次氏は人々に神楽への興味をもってもらうために、神楽囃子をテープに録音して聴かせることを

思い立ちます。唯一の伝承者だった國蔵氏は1人で笛、大拍子、大太鼓、小太鼓の四つの楽器を重ね撮りし、5か月の長い期間を要してテープが完成しました。そして、昭和30年7月1日に神社の神楽殿でテープの試聴会が開催されました。

また、同年にはNHKから神楽の笛を録音し、放送させてほしいとの依頼があり、7月31日に國蔵氏の笛の演奏が全国放送されることとなりました。健次氏は全町内にこの放送を聴くように伝えるとともに、神楽の継承を志す若者に集まってほしいと呼びかけました。こうした働きのおかげもあり、神楽復興に賛同する27名の若者が集まったといえます。

その後、昭和30年8月から実際に神楽の練習が始まりました。練習が始まった頃は、健次氏の私財で買った米1俵が夜食として振る舞われました。それを目当てに練習に来る人もいたため、20日ほどで米が底を尽きると、多いときは70人近くいた参加者も徐々に少なくなり、最終的には6人のみとなりました。

こうして國蔵氏の指導のもと、残った若者6人を中心として、本格的に復興が進んでいきます。（星野）

## 収蔵資料紹介 ⑨ 木造釈迦如来坐像の複製

郷土資料館では、霊樹寺（鷲宮3丁目）が所蔵している木造釈迦如来坐像の複製品を収蔵しています。

複製品は、実物の資料を常設展示することにより劣化が進む恐れがある場合や、郷土資料館の収蔵資料ではないが、市の歴史上重要な資料等である場合などに製作します。

この仏像は、平安時代末から鎌倉時代の初めに製作されたもので、埼玉県有形文化財に指定されています。郷土資料館では、平成11年（1999）度の特別展にあわせて複製品を製作しました。

製作の過程は、次のとおりです。

- ① 仏像に錫箔を貼り、資料を保護する。
- ② 複製品の型を作るため、錫箔の上にシリコン樹脂を塗る。
- ③ シリコン樹脂の硬化後、外側を石膏で固める。
- ④ シリコン樹脂と石膏を仏像の前面と後面に分割してはさず。（複製品の型ができる。）
- ⑤ 成形用樹脂にガラス繊維等、補強材を含めて型に塗りこみ、前後の型にあわせる。

- ⑥ 成形用樹脂を型からはさずし、形をきれいに整える。
- ⑦ 実物資料を参照しながら色調や材質感に留意し、克明に彩色を行う。

郷土資料館にとっては、複製品も実物資料とともに貴重な収蔵資料となっています。

（文化財保護課 丸山 謙司）



木造釈迦如来坐像（複製）

# 文化財調査の窓

現在開催中の特別展「久喜市の大絵馬」で展示をしている百人一首絵馬（菖蒲町菖蒲 菖蒲神社）は、縦約八九cm、横約一八五cmの三枚の大型の額に小倉百人一首の全歌人と歌を、かるたの読み札（絵札）のように描いたもので、一枚目に二十八首、二枚目に三十六首、三枚目に三十六首を配しています。百人一首を描いた絵馬は全国的にも珍しく、市の文化財に指定されています。

絵馬の一枚目には、画面中央に「奉納 大々御神楽講中」とあり、この絵馬が伊勢神宮参拝の記念として講中により奉納されたものであることが分かります。また、「藤原守直〔印〕」とあり、この図を描いた絵師と考えられます。二枚目と三枚目の裏面には墨書銘があり、これによれば右の百人一首図は、以前に奉納したが破損するに及んだので、この度太々講中を新規に催し、天明八年（一七八八）に修理して奉献したことが分かります。「執筆 道祖土三郎左衛門 貞栄（花押）」は、この墨書銘を記した人物、「細工人 辻幸八 為□（花押）」は、この絵馬を修理した人物と考えられます。奉納者は二枚目の六十九名、三枚目の百一名を合計した一七〇名で、世話人は八名でした。ここに墨書銘を翻刻して紹介します。（郷土資料館学芸員 栗原史郎）



百人一首絵馬 一枚目表



百人一首絵馬 二枚目裏



百人一首絵馬 三枚目裏

## （百人一首絵馬 二枚目裏銘）

右百人一首先奉納及破損此度  
太々講中新規相催奉献之畢

執筆

道祖土 三郎左衛門

天明八戊申歳春吉日

貞栄（花押）

関根 辰右衛門	長野 幸八	堀部 孫介
関口 五郎右衛門	荒井 治郎兵衛	堀部 左平治
四藤 光明	小林 幸七	関口 源内
堀部 百十	小勝 善蔵	堀部 宗八
遠藤 源兵衛	青木 七兵衛	出井 藤兵衛
平澤 佐七	平澤 弥八	加藤 権平
森野 勘	折原 左兵衛	青木 要右衛門
辻 幸八	小林 茂右衛門	平澤 弥久右衛門
関口 茂右衛門	鈴木 善八	堀部 忠蔵
大塚 新右衛門	出井 平右衛門	小林 仙之介
加藤 亦八	斎藤 清五郎	堀部 宗治郎
蓮見 孫右衛門	平澤 勘兵衛	平澤 辰右衛門
平澤 新蔵	堀部 要介	道祖土 久五郎
町田 利	鈴木 平右衛門	鈴木 利右衛門
関口 源右衛門	林 吉右衛門	鈴木 久兵衛
小林 与右衛門	柿沼 伊右衛門	倉持 勘兵衛
平澤 郷右衛門	五十嵐 半右衛門	加藤 正学院
金子 八五	平澤 文蔵	平澤 助七
長嶋 勘右衛門	小林 茂兵衛	堀部 友右衛門
新井 清吉	平河 平吉	堀部 銀蔵
森田 市郎兵衛	上原 浅五良	岡田 弥七
	平澤 治左衛門	林 弥七
	木村 儀左衛門	佐藤 伝兵衛
		国嶋 小右衛門

細工人  
辻幸八  
為□（花押）

## （百人一首絵馬 三枚目裏銘）

道祖土 三郎左衛門	蓮見 伝右衛門	加藤 亦七
市原 宗	同 甚右衛門	芝崎 金太郎
市原 吉右衛門	同 幸	堀部 源治郎
蓮見 勘兵	同 嘉兵	小泉 並右衛門
江崎 澤治郎	同 新兵衛	濱野 源左衛門
河野 文右衛門	同 七右衛門	宮内 文介
蓮見 熊治郎	同 乙治郎	同 藤右衛門
井ノ山 弥□右衛門	同 六郎右衛門	同 宗兵衛
蓮見 伊八右衛門	同 八郎右衛門	同 仁右衛門
立河 平右衛門	同 八郎右衛門	大崎 源蔵
小勝 吉十郎	新井 要介	新井 市郎右衛門
河野 宗右衛門	青木 元右衛門	同 李左衛門
田中 太兵衛	成田 金兵衛	同 喜左衛門
河野 銀治郎	田中 新六	同 太左衛門
斎藤 喜	同 市兵衛	同 善右衛門
青木 伝左衛門	同 与惣兵衛	同 又市
小勝 初右衛門	同 小右衛門	同 六平
小沼 徳兵衛	同 太郎左衛門	同 五兵衛
新井 利兵	同 金	同 五郎右衛門
小川 勘	同 利右衛門	田中 忠治郎
成田 伝	森谷 辰右衛門	岡野 太右衛門
小嶋 九郎右衛門	国嶋 □右衛門	関根 所右衛門
同 孫兵衛	中村 □八	同 与左衛門
市原 七郎左衛門	国嶋 □兵衛	田口 職五郎
同 伝右衛門	加藤 □蔵	柴山 宗
中山 彦右衛門	平澤 弥□右衛門	五十嵐 平
同 権左衛門	遠藤 六兵衛	内田 茂兵衛
同 文右衛門	新井 □右衛門	中野 甚左衛門
同 権右衛門	四藤 治□衛	斎藤 喜平治
同 佐治右衛門	田口 □蔵	中村 丈
同 三右衛門	大塚 国之丞	新堀 文右衛門
同 左五右衛門	大塚 □七	森田 文右衛門
又七	大塚 □七	大塚 新七
勘七	小林 藤	小林 久七
	河野 清	嶋村 七平
	平澤 喜兵	田口 幸右衛門
		大塚 定四郎
		堀部 儀兵衛
		大塚 新八
		折原 直右衛門
		佐藤 八五良

## 郷土資料館まつり開催

じゅずだまアクセサリーやわりばしでっぼうなどの昔懐かしいおもちゃ作りやわだこなどの昔のおもちゃの展示を行います。

会 場 郷土資料館 展示ホール

日 時 令和元年 11月 9日(土)

11月10日(日)

両日とも午後1時～午後3時まで

対 象 どなたでも

参 加 費 無料



じゅずだまアクセサリー



わだこ

## 合併10周年記念特別展関連講座「解説！久喜市の大絵馬」 参加者募集

現在開催中の合併10周年記念特別展「久喜市の大絵馬―描かれた庶民の「願い」と「感謝」のかたち―」(令和元年12月8日まで)に関連して、専門家から市内の絵馬の特色について、お話しさせていただきます。

講 師 大久根 茂 氏

(埼玉県立川の博物館 研究交流部長)

会 場 郷土資料館 視聴覚ホール

日 時 令和元年 11月 30日(土)

10時30分～12時(受付10時)

定 員 40名(申込順)

参 加 費 無 料

申 込 [久喜市内在住・在勤・在学者の方]

令和元年11月7日(木)10時から

[久喜市外にお住まいの方]

令和元年11月14日(木)10時から

郷土資料館窓口にて直接か、電話にて

お申込みください。



### 電車で

■東武伊勢崎線 鷺宮駅下車 徒歩15分

■JR宇都宮線 東鷺宮駅下車「豊野コミュニティセンター」

行きバス「図書館入口」下車 徒歩2分

### 自動車

■東北自動車道 加須インターから10分

久喜インターから25分

久喜市立郷土資料館だより

## 笛の音

第9号

発行 令和元年(2019)10月20日

久喜市立郷土資料館

〒340-0217

埼玉県久喜市鷺宮5-33-1

電話 0480-57-1200

e-mail kyodoshiryokan@city.kuki.lg.jp

URL <http://www.city.kuki.lg.jp/>

開館時間 午前10時～午後6時

休館日 月曜日(祝日除く)、年末年始、  
祝日の翌日、月末金曜日

入館料 無料

※有料の特別展を開催する場合があります